

## 気象病

「今までの苦いひとは」と言いたくはない。が、なぜ、そんなに写真が好きなのだろう。SNS（会員制交流サイト）とか、インスタを使うのか？

32歳のFさん。「秋になってから、体が熱っぽくなって、片頭痛も起きやすくなった。痛めた膝がうずく。気象病に違いない」と、自分で診断している。

春秋の季節の変わり目に、体がだるくなる。頭痛や目まいがする。古傷が痛んだりするというひとは少なくない。たいがいは大事に至らず、いつの間にか症状がなくなっていたりする。だから、本人でさえ、「気のせいだったか」と思ったりもする。

だが、疫学調査をしてみると、天気と痛みには関係がありそうだという結果が多い。また、実験的に気圧や気温を下げてみると、患者さんの体の不調が再現されるという結果も報告されている。だから、Fさんの症状も気象病と呼んでいいのかもしれない。

鼓膜の奥にある内耳というところに、気圧の変化を感知するセンサーがあるという説がある。センサーで感じた気圧の変化が脳に伝わり、自律神経系の活動に影響する。中には気圧の変化に過敏なひとがいて、過剰な自律神経の変化を起こすことが気象病の原因だというのである。もちろん、あくまで仮説である。

ところが、写真好きなFさんは、「自分の頭のMRI（磁気共鳴画像）の写真を撮りたい。どこが内耳？どう変なのか？」と、えらくご執心である。「センサーなんて写らない」と話したら、「色んな検査をしたら分かるかも。大学病院を紹介してほしい」ときだ。

「そんなことより、どんな治療をするか、生活習慣をどう見直すかなど考えるほうが先」と話すが納得しない。「検査してみたい」の一点張りだ。大人の駄々っ子を相手にするには、医者にも相当な年季が要る。

（石黒修三＝いし黒ろくりっく・脳神経

外科専門医…11/10 北國新聞掲載）